

2025年5月30日

日本ホスピスホールディングス株式会社

横浜市立大学との共同研究
ホスピス住宅の健康関連 QOL や身体・精神面の状態を
可視化する評価尺度をデータで検証

当社グループでは、ホスピス住宅における「看取りの質」を高めることを目的として、2021年より、横浜市立大学大学院データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻の黒木淳教授を中心とする研究グループと共同し、様々なデータを活用し解析することで「看取りの質」を定量化し、適切なホスピスケアにつなげていくことに挑戦しております。

この度、横浜市立大学医学部看護学科の叶谷由佳教授・三浦武助教らの研究グループ、同大学大学院データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻の黒木淳教授と当社グループは共同で、ホスピス住宅における「看取りの質」をより適切に評価し、入居者の個別ニーズに対応できる支援方法を検討するため、入居者の健康関連 QOL や身体・精神面の状態を可視化する評価尺度を検証しました。

本研究成果が「BMC Palliative Care」に掲載されました（2025年5月11日）ので、ここにお知らせいたします。

論文情報

タイトル	: Comparing EQ-5D-5L and IPOS among residents with malignant tumors in a community home hospice: a longitudinal study
著者	: Takeshi Miura, Masato Kaneko, Kei Kawano, Yuka Kanoya, Makoto Kuroki
掲載雑誌	: BMC Palliative Care

今後も、より多くの入居者を対象とした継続的な調査を行い、評価尺度の有効性を検証することにより、ホスピスケアの質向上に向けて連携を深めてまいります。

以上

(本リリースに関するお問い合わせ)

日本ホスピスホールディングス株式会社

取締役副社長 CFO 加藤 晋一郎

(TEL : 03-6368-4154)